

群馬大学重粒子線医学研究センター 研修報告書

研修者の氏名	戸山 真吾
研修者の施設	九州国際重粒子線がん治療センター
研修期間	2013年7月9日 ～ 2013年7月11日
受入れ担当者	中野 隆史 (センター長)
報告記載日	2011年7月16日

日々の診療で大変お忙しい中、心温かく対応して頂き誠にありがとうございます。また、若干体調を崩していたこともあり、皆様にご迷惑とご心配をお掛けしましたことこの場をお借りしてお詫びいたします。

群馬大学で今までに培ってこられた治療のエッセンスを全て吸収するにはとても短期間ではありましたが、放射線医学総合研究所との違いも含め、大変参考になりました。特に、治療計画装置は放射線医学総合研究所のものとは異なるため、線量分布やリスク臓器に対する線量の考え方など特に個別の治療に直結する部分については、同様のシステムを使用している先行施設での情報や経験を活かすことができるのは非常に心強く感じています。

治療プロトコールも着実に整備されており、素晴らしい結果が出ることを切に期待しています。重粒子線治療の今後の進歩にとって不可欠なものであると思っております。当施設は研究機関ではないため先進的な治療はやはり困難であり、今後これらの知見を当施設の治療に活かすことができればと考えています。

来月から当施設でも実際に重粒子線治療を行うこととなります。群馬大学の先生方の足を引っ張ることがないように頑張ります。これからもご指導の程よろしくお願い致します。